

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 5 月 19 日現在

機関番号：34304

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K03142

研究課題名(和文) 国際的相互連関の視点による啓蒙期フランス秘密友愛団の社会文化史的研究

研究課題名(英文) Study in socio-cultural history of French fraternal societies in their international context of Enlightened Europe

研究代表者

深沢 克己 (FUKASAWA, Katsumi)

京都産業大学・文化学部・教授

研究者番号：60199156

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：フランスを観測地点とする啓蒙期ヨーロッパ思想・文化の国際交流を、当時の新しい社交組織として急速な発展をとげたフリーメイソン団の活動を中心に研究した。そのためにフランス各地とアイルランドで調査旅行をおこない、現地の文書館・図書館・博物館を訪問して史料を探索し、また体系的に文献を収集して、それらの参照・分析・考察の成果を、日本語・英語・フランス語で公表して、国際的研究水準の向上に努めた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

わが国では、フリーメイソン史研究は未踏の分野であり、この分野で豊富な蓄積のある欧米学界との落差は大きい。本研究の学術的・社会的意義は、この落差を埋め、秘密友愛団に関する正確な認識を日本の歴史学界に浸透させると同時に、現代欧米社会におけるその存在理由を、一般市民にも理解可能にすることにある。この目的を達成するために、欧米文献のたんなる紹介・翻訳ではなく、みずから史料を探索・収集・分析する独創的研究を遂行し、それにより国際学界との対話を試みた点に、本研究に固有の意義と貢献がある。

研究成果の概要(英文)：I studied the international exchanges of European thought and culture in the Enlightenment period, choosing France as an observation point and focusing on the Freemasonry, which rapidly developed as a new form of sociability of the time. For that purpose, I made research trips to various regions of France and Ireland, and visited local archives, libraries and museums for collecting historical documents, while studying systematically the relevant bibliography. The result of the study has been published in Japanese, English and French languages to contribute to the progress of international historical research.

研究分野：西洋史学

キーワード：フリーメイソン 秘教思想 社交結社 神秘主義 宗教的寛容 社会文化史

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

ヨーロッパ史研究の関心が、古典的な政治史から社会史へ、さらに静態的な社会構造論から動態的な社会関係論へと移行するにともない、フリーメイソン団は18世紀以降の社会史を研究するうえで有効な素材として注目されるようになった。ゲオルク・ジンメルからクルゲン・ハーバマスにいたる社会学者はつとにこの秘密友愛団の機能に着目していたが、歴史家もまた長らく続いた偏見から解放され、最近数十年間に豊かな研究蓄積を実現した。しかし日本の西洋史学界では、この分野の研究はほとんど着手されず、フリーメイソン団の発祥地であるブリテン諸島史の領域でさえ、専門研究者は皆無といってよい状態だった。申請者はこの研究状況を打破すべく、数々の共同研究を組織して、研究者間の交流および若手研究者の育成に努めてきた。しかしながら、共同研究の組織化と指導には多くの時間と労力を要し、十数年にわたりそれに従事した期間には、自分自身の研究時間を部分的に犠牲にしなければならなかった。そのため個人研究の次元では、なおなすべき課題を多く残し、新たな研究環境を整える必要に迫られていた。

2. 研究の目的

今回の研究計画には2つの目的があった。その第一は、近年スコットランド、イングランド、フランスで著しい研究の進展のみられるフリーメイソン団の起源研究を批判的に検討しつつ、ヨーロッパ中世・古代にさかのぼる長期的持続のなかで、象徴と儀礼と伝説とに表現される宗教的・哲学的観念の継承と変容とを解明することである。この作業をつうじて、公教的宗教や顕示的思想の歴史の背後に、ヨーロッパの広汎な地域で共有された秘教的・暗示的な観念領域、カール・グスタフ・ユングのいう「無意識の構造」を探究することにより、ヨーロッパ文化史の隠された基底に迫ろうと考えた。歴史研究の文脈からいえば、それらの象徴体系がルネサンス期のスコットランド石工団体に導入され、イングランドでその内容に新しい要素を付け加え、さらに大陸諸国、とくにフランスとドイツに伝播する過程で、神秘的キリスト教や騎士団伝説や薔薇十字思想の影響を受けつつ変容と発展をとげる過程を包括的に理解することが重要になる。その成果を日本語の論文・著書にまとめることを目標とした。

第二の目的は、第一の課題と連動しつつ、啓蒙期フランスにおけるフリーメイソン運動の展開を、マルセイユと南フランス諸都市を中心に、その国際社交ネットワークの分析をつうじて解明することだった。フリーメイソン団は、外交官、軍人、領事、商人、船乗り、大学教師、学生など、とりわけ移動する人々、異国に居留する人々のあいだで普及し、啓蒙期の「移動性文化」(ダニエル・ロッシュ)を体現する社交組織だった。この団体がイングランドから最初に大陸に導入されるのも、ロッテルダム、アムステルダム、ハンブルクなど港湾都市を媒介とすることが多く、フランスでもボルドーやマルセイユなど港町で先駆的に発達し、パリの中央組織から独立した社会文化空間を形成したと考えられる。それゆえマルセイユを中心とする南フランス各地の組織間に構築される通信網、およびそれを介した思想伝播・交流のダイナミックな運動を追跡することにより、啓蒙期思想運動の多層的・多面的な構造を解明することが期待された。18世紀末マルセイユで、秘教的キリスト教の色彩を帯びたドイツ起源のフリーメイソン儀礼が導入された事実が示すように、この第二の課題の追究をつうじて、第一の課題を独自の視点から考察するための有益な素材がえられると期待された。

3. 研究の方法

研究期間は4年間とし、前半期は史料・文献収集に、後半期は執筆・公表に重点をおいたが、結果的にはこれらの作業は相互にオーバーラップした。史料収集の対象は、マイクロフィッシュ化された多量の同時代文書(オランダ、ベルギーで刊行)最新刊行史料集(ロンドン刊行)およびイギリス・フランス各地の文書館・図書館に収蔵された手稿史料であり、文献収集も英語圏・フランス語圏を中心に幅広い研究書を対象とした。このために毎年1~2回の海外現地調査をおこない、史料を探索・筆写すると同時に、現地でのみ調達可能な研究書・雑誌を収集し、また現地の研究者との交流を深めて、新しい研究情報の吸収に努めた。フランスではパリ、トゥール、モンプリエ、ストラスブル、コルマル、クレルモン＝フェラン、ル・ピュイなど各地で現地調査と史料・文献探索をおこない、さらに最終年度にはアイルランド史・イギリス史の専門家と協力して、アイルランドのダブリン、コーク、リメリック、ゴールウェイで調査・研究を実行した。それと並行して史料分析と執筆作業にも取り組み、日本語・フランス語・英語で複数の著書・論文にまとめて公表した。なお上記のとおり、必要に応じて国内・海外の研究者たちと協力して研究に努めたが、固定的な研究分担者・連携研究者は指定しなかった。

4. 研究成果

(1) フリーメイソン関連施設・特別展示の視察と資料収集の成果としては、2016年パリ国立図書館(BNF)開催のフリーメイソン特別展、フランス大東方会(GODF)博物館開催の「 Templar騎士とフリーメイソン」展、同年トゥール秘密職人組合博物館常設展示、および2019年のアイルランド大会所(Grand Lodge of Ireland)博物館での調査がとくに重要であり、それぞれの機関で画像資料を含む貴重な資料を入手することができた。

(2) 一次史料の探索・収集の成果としては、2016~18年フランス大東方会図書館での「ロシア文書」(Archives russes)の継続的調査による選別史料のデジタルデータ化、2017年ストラスブル大学図書館での膨大な量の関連文書(fonds Turckheim Mss. 139)の完全デジタルデータ化、

ベルギー・ルヴァン大学所蔵文書マイクロフィッシュ(Fonds Valentin Brifaut: Freemasonry and antimasonry)の一括購入、およびロンドンで2016年に印刷刊行された全5巻の未刊行史料集(British freemasonry, 1717-1813)がその主要部分をなすが、その他にもモンプリエ、クレルモン＝フェラン、ル・ピュイなどで有益な史料を参照することができた。

(3) 研究成果の印刷公表としては、英文の共編著 *Religious Interactions in Europe and the Mediterranean World* (『ヨーロッパと地中海世界における宗教的相互作用』、2017年)、単著『マルセイユの都市空間 幻想と実存のあいだで』(2017年)、単著論文「カルヴァン以前のフランス宗教改革」(踊共二編著『記憶と忘却のドイツ宗教改革 語りなおす歴史 1517-2017』所収、2017年)、フランス語単著論文 Claude-Francois Achard et le debut trouble de la Loge de la Triple Union de Marseille (「クロード＝フランソワ・アシャールと三重団結会所初期の混乱」雑誌 *Renaissance Traditionnelle*, 2019年)が主要業績であり、これらの著書・論文においてフリーメイソン団の諸問題を、宗教史・都市史・社会史それぞれの文脈から論述することができた。この他にも書評・講演要旨・事典項目執筆の成果がある。

(4) 研究成果の口頭発表として、「近世フランス宗教史上の諸問題 信仰と宗派のあいだ」(日仏歴史学会総会講演、2017年)、「宗教論的転回のゆくえ 寛容と共存の宗教史は不可能か」(帝国史研究会、2018年)、「近世フランス宗教史上の転換点 ギュイヨン夫人と『神秘主義の黄昏』をめぐって」(欧米文化史学会、2018年)、「啓蒙期フリーメイソン史研究の現状と論点」(日本学士院第一部会論文報告、2020年)があり、最後の日本学士院論文報告の完全原稿は2020年度中に『日本学士院紀要』第74巻4号に掲載予定である。なお学術的な研究発表ではないが、2017年新潟市で開港記念プレセミナー講演「フランス海港史の視点から 新潟、ナント、マルセイユ」を、また2020年長野市で市民教養講座「港町からヨーロッパ史を見る 木造帆船からコンテナ革命まで」をおこない、いずれも港町と社交結社の国際ネットワークとの関連を論じ、研究成果を一般市民に還元すべく試みた。

以上の成果をつうじて、本研究計画の目的として掲げた2つの課題、すなわちブリテン諸島とヨーロッパ大陸にまたがるフリーメイソン団起源研究の批判的再検討、およびマルセイユを中心とするフリーメイソン国際社交ネットワークの解析を実行したことにより、日本の国内学界と欧米の国際学界との双方の次元で、歴史理解の向上に一定の寄与をなしえたと考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Katsumi Fukasawa	4. 巻 194
2. 論文標題 Claude-Francois Achard et le debut trouble de la Loge de la Triple Union de Marseille	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Renaissance Traditionnelle	6. 最初と最後の頁 118-125
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 深沢克己	4. 巻 32
2. 論文標題 近世フランス宗教史上の諸問題 信仰と宗派のあいだ	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日仏歴史学会会報	6. 最初と最後の頁 46-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 深沢克己	4. 巻 1
2. 論文標題 カルヴァン以前のフランス宗教改革	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 記憶と忘却のドイツ宗教改革 語りなおす歴史 1517-2017	6. 最初と最後の頁 133-163
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 深沢克己	4. 巻 80
2. 論文標題 書評 ヘルムート・ラインアルター著、増谷英樹・上村敏郎訳・解説『フリーメイソンの歴史と思想 「陰謀論」批判の本格的な研究』	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 史潮	6. 最初と最後の頁 137-142
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 深沢克己
2. 発表標題 啓蒙期フリーメイソン史研究の現状と論点
3. 学会等名 日本学士院第一部会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 深沢克己
2. 発表標題 宗教論的転回のゆくえ 寛容と共存の宗教史は不可能か
3. 学会等名 帝国史研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 深沢克己
2. 発表標題 近世フランス宗教史上の転換点 ギュイヨン夫人と「神秘主義の黄昏」をめぐって
3. 学会等名 欧米文化史学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 深沢克己
2. 発表標題 近世フランス宗教史上の諸問題 信仰と宗派のあいだ
3. 学会等名 日仏歴史学会（招待講演）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 深沢克己	4. 発行年 2017年
2. 出版社 刀水書房	5. 総ページ数 200
3. 書名 マルセイユの都市空間	

1. 著者名 Katsumi Fukasawa, Benjamin J. Kaplan and Pierre-Yves Beaurepaire (eds.)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 350
3. 書名 Religious Interactions in Europe and the Mediterranean World: Coexistence and Dialogue from the 12th to the 20th Centuries	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----